

『家族支援研修～ケアマネジャーが行う家族支援～』に参加して

報告者：JA 高岡居宅介護支援センター 田畠 里美

令和 7 年 9 月 24 日 オンラインにて『家族支援研修～ケアマネジャーが行う家族支援～』が開催されました。講師は国際医療福祉大学大学院 教授 石山麗子先生でした。

まず初めに、ケアマネジメントでは、「“何の為に（何を目的として）” “家族の誰に目を向けて” “どのような方針”で支援するのか」というお話をありました。利用者の生活の安定を図る為には、家族を構成する 1 人 1 人と家族全体へ目を向け、家族の力を最大限に引き出し家族全体の生活の安定を目指し家族の力をつける（危機回避力・危機に備える力をつける）方針で支援する必要があります。尚、その際には、家族内に生じた『介護』という出来事やファミリーサイクル（家族周期）を家族としては、“どう捉えているのか” “どう対応しているのか” “どう変化する力を持っているのか”を十分に理解した上で家族の成長を促すことになります。

また、『家族支援』の類型についても教えて頂きました。『家族支援の基本型』は『利用者支援』を主たる目的とした『家族支援』で、利用者の家族すべてに対して行うものです。家族の意向と立場を大切にして労い承認する。また、介護負担軽減を図り虐待への発展を防ぐなどの支援があります。それに対し『該当者のみに行う選択型』は利用者以外の家族の個々を対象とした支援であり、家族の方自身の要支援・要介護認定申請の他、介護保険制度とは別の制度（育児介護休業法、障害者総合福祉法等）につなぐ支援などがあります。これまで私自身は家族への支援の方法を分類したことなく、今後の支援の際の状況整理に役立つと感じました。

講義の後半は、事例を通して『介護する家族を支援するケアマネジメント技法』を学びました。そもそも介護保険法は『介護の社会化』を目的としていてサービス活用は家族支援にも資するものです。また、家族を支援する社会保障制度は介護保険制度以外にはありません。尚、『家族支援』にはケアマネジャーが重要な社会資源となります。担当するケアマネジャーの知識や経験、ケアマネジャーの個人的な価値観や家族観に大きく影響されることになってしまう為、ケアマネジャー個人には資質向上が求められ、サービスの活用だけではなく、『家族支援』を目的とした意図的な相談・面接を行う技術が大変重要であることを学びました。また、私自身がケアマネジャーとして家族と関わるにあたり、単に雑談するのではなく一定水準以上の相談技術をもって接しているか？ また、『家族支援』という認識をもって意図的に面接する技術を持っているのかどうか？ と、改めて考えさせられました。

今回の研修を通じて、公正・中立な立場であるケアマネジャーの『面接技術』が『家族支援』に資するものであると改めて感じました。今後の支援にあたる際には偏った価値観・家族観にとらわれることなく、利用者と家族の成長を促しながら相談援助の専門職として対応していきたいと思います。